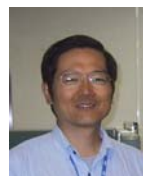


# 34m、11m電波望遠鏡



電磁波研究所  
時空標準研究室  
主任研究員  
川合 栄治



電磁波研究所  
時空標準研究室  
副室長  
関戸 衛

概要: 時空標準研究室は鹿島に日本で3番目の大きさを有する34m電波望遠鏡のほか、鹿島、小金井に11m電波望遠鏡を運用しており、周波数比較プロジェクトの推進のため次世代広帯域フィードの開発やその実証実験等に使用しています。その他、国立天文台、国土地理院などとの共同研究、STEREO衛星信号受信など様々な活用しています。

## 鹿島34mアンテナ



搭載した広帯域フィード

34mアンテナ受信機室の広帯域フィード。左側のホーンが3.2~14.4GHz、右側が6.4~15GHz。詳細はポスター56“広帯域アンテナの開発”参照。

鹿島34mアンテナは、マイクロ波帯の受信機を複数搭載した国内で3番目に大きな高感度の電波望遠鏡施設です。主目的の周波数比較VLBI観測の他に、パルサー、木星、アンモニア分子雲の電波天文観測など、単鏡観測として共同研究に基づく観測にも活用しています。

震災復旧工事後、2014年4月にアンテナ立ち上げ作業を実施、5月から通常運用を再開しています。メインプロジェクトであるVLBI時刻比較での活用はもとより、NICT内での活用の要望や共同研究課題などがあれば積極的に応じたいと考えています。

アンテナ主鏡背面構造部の腐食に対応した補修工事を2017年3月末から5月上旬に予定しています。

次世代周波数比較プロジェクトのため広帯域VLBIシステムを開発中であり、その受信系として現在は3.2~14.4GHz、6.5~15GHzが受信可能な試作フィードを34mアンテナに搭載しています。

更に広帯域な2.2~18GHz受信フィードを開発中で、詳細はポスター56“広帯域アンテナの開発”を参照ください。34mアンテナL帯は混信対策のため冷却受信機内に低損失のデュアルバンド超伝導フィルタを設置しています。

表1 鹿島34mアンテナの受信性能

周波数帯	周波数 (GHz)	雑音温度 Tsys (K)	アンテナ効率 (%)	システム等価フラックス密度 (Jy)
L帯	1.405-1.440 1.600-1.720	50	70	200
S帯	2.21-2.35	65	65	300
広帯域	2.2-18 plan 6.5-15** 3.2-14.4**	150-200	30-40	900-2000
X帯	7.86-9.08	66	60	300
K帯	22.0-24.0	141*	40	990
Ka帯	31.7-33.7	150*	40	1100
Q帯	42.3-44.9	350*	25	4200

\*: TsysではなくR-Sky法により測定したTsys\*

1Jy(ジャンスキー)= $10^{-26}$ W/Hz/m<sup>2</sup>

\*\* : 詳細はポスター56“広帯域アンテナの開発”を参照

表2 鹿島34mアンテナ諸元

アンテナ口径	34m
形式	カセグレン
駆動速度AZ	0.8deg./sec
駆動速度EL	0.64deg./sec
駆動範囲AZ	±270deg.
駆動範囲EL	7 - 90deg.
天体追尾精度	0.004deg.rms

## 鹿島・小金井11mアンテナ



鹿島11mアンテナ



小金井11mアンテナ

表3 鹿島・小金井11m  
アンテナ諸元

アンテナ口径	11m
形式	カセグレン
駆動速度AZ	3deg./sec
駆動速度EL	3deg./sec
駆動範囲AZ	±265deg.
駆動範囲EL	5 - 90deg.
天体追尾精度	0.010deg.

表4 鹿島・小金井11mアンテナの受信性能

周波数帯	周波数 (GHz)	雑音温度 Tsys (K)	アンテナ効率 (%)	システム等価フラックス密度 (Jy)
S帯	2.21-2.36	60	58%	3000
X帯	7.70-8.60	110	64%	5000

鹿島11m、小金井11mアンテナは、測地VLBI観測専用のアンテナとしてS/X帯の2周波同時観測ができ、3 deg./sec. という高速駆動性能を持つアンテナです。主として時空標準研究室の新しいVLBI観測システムの実証試験、時刻比較VLBI実験等に活用しています。小金井11mアンテナの空いた時間には電磁環境研究室によりNASAのSTEREO衛星のダウンリンクデータの取得にも活用されています。